

●第91回日本生理学会大会を終えて

第91回大会長、鹿児島大学 亀山 正樹

第91回日本生理学会大会は、平成26年3月16日から3日間にわたり、鹿児島市の鹿児島大学郡元キャンパスで開催されました。参加人数は1521人、演題総数は942題、その内、シンポジウム等（フォーラムを含む）が60件257題、一般演題が670題（若手口演36題、ポスター634題）でした。その他に、教育プログラム、ランチョンセミナー、グループディナー、公開講演会、サテライトシンポジウム、全体懇親会、テニス大会などが開催されました。予想を超える沢山の方々にご参加頂いたことに対し、深く感謝申し上げます。大会期間中を通してほぼ好天に恵まれ（3日目午前の雨を除き）、キャンパス内に分散した会場間の移動も大きな混乱なく行われ、ほっとしている所です。とは言え、様々な不行き届きもあったかと思えます。いたらなかった点については、お詫び申し上げます。

第91回大会は、100回大会に向けたカウントダウンの一步を踏み出す大会と位置づけられること、また、鹿児島の地で開催されることなどを考慮して、テーマを「温故知新～生命の理を究める」としました。特別講演には、京都大学名誉教授、沖縄科学技術大学院大学教授の柳田充弘先生に、「日本の生命科学 過去50年そして未来」と題してご講演頂きました。記念講演は、W. Trautwein 記念講演として独ケルン大学のJ. Hescheler 教授

に、有村章記念講演として循環器病センター所長の寒川賢治先生にお願いしました。Trautwein 先生は、心臓生理学のパイオニアの一人で、門下のHescheler 先生はES/iPS細胞の生理学とその臨床応用へと研究を発展させています。有村章先生は、鹿児島ご出身のPACAPの発見者で、生理活性ペプチド研究の第一人者である寒川先生にご講演して頂きました。大会記念講演は山本隆先生（畿央大）と大平充宣先生（同志社大）に、また、萩原記念レクチャーは丹治順先生（東北大）、田原記念レクチャーは本間生夫先生（東京有明医療大）にお願いしました。さらに、平成23年の横浜大会が誌上開催になったため、ご講演の機会を逃された大森治紀先生と梶谷文彦先生にも改めてご講演をお願いしました。招待講演は、L.B. Cohen 先生（Yale Univ.）、G.W. Zamponi 先生（Univ. Calgary）、篠田義一先生（東京医歯大）、永雄総一先生（理研）、老木成稔先生（福井大）にお願いしました。また、生理学エデューケーター制度が本格運用となり、盛況裡に終了しました。関係者に敬意を表するとともに、今後ますます発展することを願っております。

最後に、皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。来年の大阪（神戸）大会でお会いしますことを楽しみにいたしております。